

会 議 録

会議名称	平成25年度 第3回 佐倉市子育て支援推進委員会
開催日時	平成26年3月27日(木) 午後2時～午後4時
開催場所	佐倉市役所議会棟2階 第4委員会室
出席者等	委 員：久保委員、清宮委員、秀島委員、小野委員、永山委員 長島委員、高橋委員、徳永委員、古賀委員、長谷委員 高木委員、斉藤委員 事 務 局：山辺健康こども部長 子育て支援課 立田課長、山本副主幹、長谷川主査 滋野主査、小川主査補、酒井主任主事、新井主事
会議議題	(1) ニーズ調査の結果について (2) 今後のスケジュールについて (3) その他
会議経過	別紙、平成25年度 第3回 佐倉市子育て支援推進委員会 会議録のとおり

平成25年度 第3回佐倉市子育て支援推進委員会 会議録

【1 健康こども部長挨拶】

【2 委員の交代について】

小学校長のお立場で委員となっていておりました佐倉東小学校長加曾利委員が、人事異動に伴い退職されたため、教育委員会より、同じく佐倉東小学校長の日暮美智子校長先生を後任としてご推薦いただきましたので、ご報告させていただきます。

【3 議 事】

●議題1 ニーズ調査の結果（速報値）について

資料1. 佐倉市子ども・子育て支援に係るニーズ調査結果報告書
【速報値】未定稿

●議題2 今後のスケジュールについて

資料2. 新制度準備事務スケジュール

●議題3 その他

資料3. 委員意見書及び回答

【ニーズ調査の結果（速報値）について】

（事務局説明）

資料1「佐倉市子ども・子育て支援に係るニーズ調査結果報告書【速報値】未定稿」により、ニーズ調査の結果について説明。

（委員長）

ただいま事務局より説明があったが、質問などはあるか。

（委員）

当日に、これだけの資料を渡されて、意見を言うのは難しい。
欠席の委員にも資料を事前に送付していれば、意見をもらうことも出来ると思う。年度末の開催で、出席することが難しい委員もいると思うので、開催時期についても検討していただきたい。

（委員）

就学前の児童の全体数はどれ位か。

（事務局）

7,000～8,000 人である。

（委員）

小学生児童数はどれ位か。

（事務局）

小学生の児童数は、明確な数字がこの場では申し上げられないが、就学前と同じ 7,000～8,000 人である。

（委員）

回収率については、自分が考えていたより高いと思うが、回収するにあたり、提出について市の方から促しをしているか。

（事務局）

提出期限を 1 月 17 日とし、1 月 21 日現在の回収件数が、未就学児童分が 400 件、小学生児童分が 362 件であった。1 月 22 日に調査協力の御礼と併せてお願いの文書を送付している。

（委員）

1 月 21 日の回収件数と今日の速報値の件数の差は、電話で提出を促したことによって増えたということか。

（事務局）

1 月 9 日に発送をして、期限が 1 月 17 日と期間をあまり長く設けてはいなかった。今回の調査は、無記名での回答であるため、どなたから回答が来ているのか把握が出来ないので、初めに調査を送付した 2,000 件の全員に、調査協力の御礼と未提出の方がいたら協力をお願いしたいという一文を添えて、礼状を送付してお願いをした。

（委員長）

他の市町村では、回収率が 30%位のところもあったようなので、予想より良い回収率であったのではないか。

（事務局）

1 2 月の委員会で、委員の皆さまから頂いた意見を反映させて、少

しでもわかりやすい形でということで実施したことが、回収率が高くなった要因ではないかと考えている。

（委員）

とても貴重な資料だと思う。新制度ということで、国の制度に合わせて今回の調査が活用されればと思う。それとは別に、佐倉市独自の制度を作るべきではないか。女性は家計のために働かなければいけない状況があるので、地域は人口を守ることと、地域の子どもと母親を守る意味で、抜本的な施策を考えられないのかと感じている。家庭の主婦が地域で働けるように、公務員もパート制度を導入してはどうか。子どもは、1歳から3歳の教育が非常に大切なので、その時期に一定時間は、母親か父親と一緒に居るべきだと思うので、その時間をどう確保するのかという観点で、政策を立てていただきたい。

（委員）

ニーズ調査が宛所にたどり着かなくて、返送されてきた件数はどれ位あったか。

（事務局）

宛所にたどり着かなかった件数は2件あった。

（委員）

その2件について、なぜ宛所に着かなかったのか実態調査を行ったのか。

（事務局）

実態調査は行っていない。

（委員）

実態調査をする良い機会だと思うが。

（事務局）

データの抽出と発送のタイミングで、その間に転居されているということも考えられると思うが、内部で検討をして対応を考えたい。

（委員）

このニーズ調査は、保育園や認定こども園がどれ位必要かということに繋がる調査だったと思う。調査の結果を見ると、保育園や保育日数をもっと増やして欲しいというような印象は受けなかった。どちら

かと言うと、幼稚園の預かり保育や一時預かりを増やして欲しいという意見が多いように思える。事務局の方では、全体的な印象としてはどのように感じているのか。

（事務局）

今後、この調査結果を基にニーズ量を出すこととなる。個人的には、一時預かりや幼稚園の預かり保育の要望が、非常に多いように感じている。保護者の就労状況も、8時間勤務の方が多いということではなく、4～5時間のパートタイムでの働き方が多いという結果も見られる。現在、就労していない方も、パートタイムでの短時間での勤務希望が多いように感じている。今後は、一時的な保育事業のニーズが多いのかと感じている。

（委員）

認定こども園の相談件数や新規の保育園の相談件数は、現在どれ位あるのか。

（事務局）

随時、相談があり具体的な件数は、すぐにこの場では出てこない。

（委員）

認定こども園と限定して相談はきているか。

（事務局）

認定こども園は、国が新制度に向けた新たな基準を検討しており、正式に示されていないので、示されるとその基準に基づいた相談ということで件数が見えてくるかと思う。今は、保育園や認定こども園の相談が来ても、認定こども園の相談件数が何件ということではなく、全て一緒に考えて相談を受けている状況である。

（委員）

核家族が増えているので、家族かどうかということで振り分けて調査をしていくとわかるかと思うが、核家族で両親共働きということになると、子どもにしわ寄せがきてしまうのかと思う。家庭で保育をしている人や、パートで働いている人への支援を手厚くしてもらいたいと思う。一時預かりのリフレッシュ枠での利用日数も、3日からずっと変わっていないので検討してもらいたい。個々の意見でも、小さい子どもが雨の日でも遊べる施設を増やして欲しい、親同士の交流する機会を多くして欲しいという意見もある。

ファミリーサポートも、未就学児の場合は、あまり希望が無いように感じた。小学生になると、放課後はファミリーサポートを利用したいという希望が増えているように思う。料金も未就学児の場合と小学生の場合とで変わらない。兄弟2人を預ける場合は、2人分の料金を支払はないといけないとなると、お金がある人でないと利用が出来ないと思う。ファミリーサポートの料金などの対応については、どのように考えているか。

（事務局）

一時預かりは、志津地区での利用希望が多く、お断りしている場合もある。多くの方に利用してもらいたいという考えから、リフレッシュ枠については3日としている。現状でもお断りしている場合があるので、その点については課題だと考える。

ファミリーサポートの料金については、アンケートを実施しており、90%の方が適切であるとの回答であった。今の委員の意見についても、今後に検討を進めさせていただきたい。

（委員）

どの地区にどの位のニーズがあるのかということを掘り起こすには、地域ごとに調査をして、地域ごとの必要量を明らかにしたうえで、具体的な方策を立てなくてはいけないと思う。このニーズ調査は、その前段ということの受け止め方でいいのか。

（事務局）

本日、報告させていただいた結果は、前段ということで、地域ごとの振り分けについては現在進めているところである。

（委員）

佐倉市は、子ども・子育て会議が立ち上がっていないので、いつから立ち上げていくのか等、市の考えを聞きたい。

（委員長）

次の議題の中で話があるかと思う。

（委員）

公立幼稚園を望むような声もあるようだが、これまでもこう言った意見はあったのか。

（事務局）

今まで、このようなご意見があったのかどうか把握はしていない。これから量の見込みを全国統一の方法で算出することとなり、具体的に整備をするのかということは、現時点では申し上げられないが、このようなご意見があったということで、次の計画策定の中で参考にしていきたいと考えている。

【今後のスケジュールについて】

（事務局）

資料２「新制度準備事務スケジュール」により、今後のスケジュール等について説明。

（委員）

今後に量的なことや潜在化した問題を掘り起こした時に、委員とするかオブザーバーとするのか検討は必要だと思うが、もっと子どもに関わる人達を質や量を検討していくうえでは、必要ではないかと感じている。

（事務局）

資料３で以前に別の委員の方からも、同様のご意見をいただいている。委員の選定については、条例に基づいて選任することとなるが、例えばオブザーバーを集めて意見交換が必要だということが、委員会の中で、審議されて決定されれば、事務局としても検討していきたいと考えている。

（委員）

以前に委員をしていた時に、他の公募委員と意見交換をしたいので、集まる機会を設けていただくか連絡先を教えて欲しいとお願いしたら、それはできないとのことであった。当事者を個人で集めるのは難しい。２時間位の会議を年に２回とかではわからない事が多いので、小委員会などで当事者の声を、きちんと反映させていただけるような計画にしていいただきたいと願っている。

（事務局）

小委員会や部会の設置についても、この委員会で決定されれば、検討していきたいと考えている。

【その他】

（事務局）

資料３「委員意見書及び回答」について説明。

（委員長）

委員より簡単に説明をお願いしたい。

（委員）

次世代育成支援行動計画については、目標がわかっても、その目標について、具体的に何をするのかという事業計画がわからなかった。それを評価する時に、何を持ってして出来たか出来なかったのか評価するのかがわからなかったので、10年経過して、その成果と残された課題を知りたい。後期計画は26年度が最後の年なので、取りまとめの際には、わかりやすいようにお願いしたいということと、小委員会の設置についてもお願いしたい。

（委員）

ファミリーサポートの利用方法については、緊急に利用したい場合があると思うが、その場合はどのような対応をするのか。

（事務局）

基本的には、2～3日前までには、申込みをしてもらい顔合わせの時間を必ず取ってから、サポートすることとなっている。今日の今日でということは難しい。

（委員）

近くに身内や知り合いがいない場合、遠方にいる親が事故や病気で入院した時など、小さな子どもを連れてはいけないということもあるかと思う。障害を持っているお子さんは、更に厳しい。そういう時に、一時的に預かってもらう人や場所が必要だと思うので、ファミリーサポートも、もう少し柔軟に対応できないのかと思う。保育ママはどうなっているか。ベビーシッターを探すより、信頼のできる保育ママに対応してもらえると良いと思うが。

（事務局）

保育ママの話があったが、家庭保育についても顔合わせをしないで預かるということは、お子さんにも不安を与えてしまうので、きちんと顔合わせをしてからお預かりしている。ファミリーサポートについても、出来るだけ預かりたいという思いを会員も持ってくれている

が、提供会員が見つからない場合は、お断りさせていただくこともある。

（委員）

臨機応変に対応していただけるように、今後なってもらいたいと思う。障害を持っているお子さんは、本当に厳しいので、佐倉市内の支援学級がどれ位いるのか把握していないが、私が知っている所は、どんどん支援学級が増えている。対応に悩んでいる保護者も多くいるので、その点も踏まえて今後対応していただきたい。

支援学級の支援委員について、教育委員会と一緒に考えなければいけないのかも知れないが、佐倉市の支援員は、公募を簡単にしているように思えるが、市で行っている特別支援教育支援員の講座を、受講してから支援員になれるのではなく、別の場所に各自で研修を受けに行っている支援員に会ったこともあるが、年2回の研修の前に支援員になるための研修は行っていないのか。

（事務局）

いわゆる従事前の研修を、実施しているのかは確認していない。

（委員）

もし、研修をされていないのであれば、未就学の頃から関わってることなので、きちんとした研修が必要だと思っている。それ位していかないと、個別支援は本当に難しいと思う。幼稚園や保育園から、きちんと小学校の先生に繋がるようにしていただきたい。

（事務局）

子育て支援課にも、保育士や保健師が在籍しており、言語の先生も呼んで、保育園や学童の方へ巡回相談に行き、アドバイスを行っている。

（委員）

妊娠した時から、子育て支援が始まると考えているので、母子手帳は市役所で発行が受けられるが、八千代市では子育て支援センターでも母子手帳の発行が受けられるようだ。今回の調査で、母親学級への参加意欲が少ないということのようなので、妊娠した時から専門職が関わって、若年出産やリスクの高い妊婦さん等には、妊娠期から関わって信頼関係を築いていった方が、その後の子育ても上手くいくのではないかと思う。専門職が妊娠の届出の時から、関わっていただきたいと思っているがいかがか。

（事務局）

妊娠届を子育て支援課や健康増進課で発行することについては、すぐにとすることは難しいと考えている。しかし、パパママクラスの参加意欲が少ないという結果については、担当部門へ伝え、それを担当部門で考えていく上で、今回のご意見も関連してくることがあるかも知れない。この調査の結果は、子育て支援課だけの問題ではないと考えているので、関係する部署全体で共有して考えていきたい。

（委員）

子育てナビについて、ここから子育ての情報が得られるとのことだが、民間が行っているイベントの情報などについて、今は民間の情報は含まれていないかと思うが、今後はどのように考えているか。

（事務局）

（株）アスコエパートナーズが、ユニバーサルメニューとして独自に開発しているものである。まず、（株）アスコエパートナーズのページに入り、そこから市のページにもリンクを貼っているので、民間のイベントの情報などについても、まずは市のホームページの内容を充実させなければいけない。今後は子育てナビを、市も活用していきたいと考えているので検討していきたい。

（委員）

委員が作っている子育てカレンダーは、見ている人が多いと思うので、子育てナビから見られると良いと思う。

（事務局）

県のページなどの外部へのリンクもあるので、個人の方のページのリンクを貼れるのかどうかは、協議が必要になるが検討ができるのではないかと。市も子育てナビを、ぜひ活用したいと考えているので、今のご意見も参考にさせていただきたいと思う。

（委員長）

委員の皆さん一人一人が、佐倉市の子どもたちを幸せにという思いで、熱心にやっけていただいていると感じているので、良い子ども・子育て支援制度になることを願っている。

閉会

以上